


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」









項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、外出関連消費が好調なことや、インバウンドの回復により緩やかに回復しつつある。生産活動は、海外向けの需要回復に遅れがみられることなどから足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は減益見込み	5年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じる	「上昇・下降」が拮抗している	
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	
輸出	前年を上回る	前年を上回る	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、家電販売は、エアコンなどが低調であり、前年を下回っている。スーパー販売、コンビニエンスストア販売は、外出関連商品などが好調であり、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車いずれも前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 例年に比べて気温が上昇しなかったことから、エアコンが低調となっている。また、巣ごもり需要から旅行や飲食への需要への変化や、物価高の影響で買い替え時期を遅らせる動きがあり、売上高が前年を下回っている。（家電量販店）
- コロナ禍の巣ごもり需要で好調だったDIY関連商品などが反動により不振となっているほか、物価高で節約志向が高まっていることから買上点数が減少している。（ホームセンター）
- 外出意欲の高まりにより、トラベル商品や婦人服、帽子などの外出用の服飾雑貨が好調。物価の上昇により一点単価があがったこともあり、売上が好調となっている。（スーパー）
- 外出機会が増加していることから、おにぎりやファストフード、ドリンクなどが好調となっている。インバウンド客もみられるようになっている。（コンビニエンスストア）
- ラグジュアリーは引き続き好調。外出して人と対面する機会が増えたため、化粧品やビジネススーツなどが好調となっているほか、インバウンドも売上に寄与している。ただし、G7 広島サミット中は交通規制等により売上が減少した。（百貨店）
- 半導体不足の緩和により完成車メーカーからの供給が増えたことから、納車待ちの状況が解消されつつあり、登録台数が前年を上回っている。（自動車販売）
- 旅行需要は依然として好調で、外国人観光客も増加しており、客室稼働率は高い水準で推移している。飲食店もコロナ前を超える盛況となっている。（宿泊業・飲食サービス業）

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

輸送機械は、半導体不足の緩和により、増加している。鉄鋼、電気機械は、自動車向けの需要回復などから、増加している。一方、汎用・生産用・業務用機械は、コロナ特需で需要のあった医療関係向けの受注減などから減少している。化学は、海外インフラ向けの需要回復に遅れがみられることなどから、減少している。このように、生産活動は、全体では、足踏みの状況にある。

- G7 広島サミット中は操業を停止したものの、半導体不足の影響が緩和されつつあることから、生産が増加している。（輸送機械）
- 半導体不足の影響が緩和されてきたことにより、自動車メーカーの生産が回復していることから、主に国内自動車向けの受注が回復している。（鉄鋼）（電気機械）
- コロナ特需で需要のあった医療関係向けなどからの受注が低下しているほか、EVを除く中国向けの需要が回復しておらず、生産が減少している。（生産用機械）
- 中国経済の回復の遅れなど、海外インフラ向けに需要に弱い動きがみられることから、生産量は減少している。（化学）

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいで推移しており、新規求人数は底堅く推移していることなどから、持ち直している。

- 人手不足対応として、製造ラインの検査工程にAIを導入して省力化を図っている。（輸送用機械）
- 運転手などの慢性的な人手不足に加え、足元の旅行需要の増加により、人手不足感が強くなっている。（運輸）
- 資源価格の高止まりによるコスト増加から、製造業では求人を抑える動きが見られている。（公的機関）

- **設備投資** 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期
 - 製造業では、「その他製造業」などで減少するものの、「生産用機械」、「情報通信機械」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、「農林水産業」などで減少するものの、「運輸、郵便」、「金融・保険」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 生産能力増強のための新工場建設。(生産用機械)
- 代替船の建造と新事業への進出を予定。(運輸、郵便)

- **企業収益** 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期
 - 製造業では、「パルプ・紙」、「自動車」などで増益となるものの、「情報通信機械」、「鉄鋼」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、「小売」、「宿泊・飲食サービス」などで増益となるものの、「学術研究、専門・技術サービス」、「運輸、郵便」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

- **企業の景況感** 「『上昇・下降』が拮抗している」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期
 - 企業の景況判断BSIは、「上昇・下降」が拮抗している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

- **住宅建設** 「前年を下回る」
 - 新設住宅着工戸数で見ると、貸家、持家などが減少していることから、前年を下回っている。

- **輸出** 「前年を上回る」
 - 輸出(円ベース)は、鉄鋼、化学製品などが減少しているものの、自動車、一般機械などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジアで減少しているものの、北米、西欧などで増加している。
 - なお、輸入(円ベース)は、石油製品、原油及び粗油などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、大洋州、中東などで減少している。

3. 各県の総括判断

	前回(5年4月判断)	今回(5年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、外出関連消費が好調なことや、インバウンドの回復により緩やかに回復しつつある。生産活動は、半導体不足の緩和による自動車関連需要の回復などから緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
鳥取県	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	持ち直している		雇用情勢は横ばいの状況にあるものの、生産活動は持ち直しつつあり、個人消費は持ち直している。
島根県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している		個人消費は持ち直している。生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は持ち直している。
岡山県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
山口県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。